

じゃあ、里山はどんなSDGsと関係があるのでしょうか。

里山の方は、目標13、14、15に相当するものになっています。

・目標13 気候変動対策

里山の保護は、気候変動対策に関係あります。

私たちが里山を保護すればするほど、例えば里山を管理すると、今回のように大雨が降ったとしても土砂崩れが起きないような形ができるかもしれない。

それから、里山を管理すると、里山から適切な栄養源が出てきて、川や海の生き物に供給されることによって、いろんな生き物が利用できるかもしれない。

そういった点では里山で二酸化炭素を固定してもらったりとか、里山から出てくる栄養源を使って二酸化炭素を固定してもらったりとか、できるわけです。

このようなことで、実は里山の管理をすることは気候変動対策になります。

・目標14 海の豊かさを守ろう

里山を管理することは、海から山が川でつながっているのだから、山を管理しないと海が荒れてしまうということが言われています。

気候変動を研究している先生たちに聞くと、江戸時代の終わり頃、今みたいに気候変動が起きてしまって大雨が起きています。大雨があちこちで降って川が氾濫をし、土砂崩れが大量に起きた時期があります。

その時期何が起こっていたかということ、江戸時代の終わりから明治維新は、戦乱の時期で、里山に人が入らなくなって山を管理しなくなっていました。

もちろん気候変動の影響もあるが、里山が管理されなかったことから、土砂流出が起きて、災害が起きています。

つまり人が山に入らなくなると、海から陸から、いろいろな生物が死んでいってしまったと言われているので、里山の管理は大切です。

他にも、里山の管理をすることは、水の保全ができます。植物が水を蓄えたり、植物が育つことによって地面の中に菌類、分解者がたくさん入ることになります。分解者がたくさん入ると水を浄化したり、有害物質を分解したりできます。

したがって、里山の管理をすれば水がきれいになることは、すごく大事なことです。それから、気候変動に対しても対応ができ、海の生態系に対しても対応できます。陸の生態系に対しても対応できます。だから、里山管理をしていきたいと思いますということになるわけです。

これは、例えば私たちの生活において、植物が光合成をしたものを草食動物が食べ、これを肉食動物が食べる。ここから糞や死骸が出てきて土の中の分解生物が分解して、もう一度こちらに戻ってくる。

このネットワークがすごく大事で、里山があればこのネットワークがうまく働くわ

けです。これが生態系の機能回復につながっていきます。

現在、日本の生態系は、機能回復が出来なくなるくらい、壊れています。例えば、いま山に行くと、地面に何も生えていないような植林地帯があったりします。

樹木がたくさんあると下の方に草が何もなくなってしまいうけです。草がなくなると何が起こるかという、分解生物がなくなってしまうわけです。

里山の概念は、畑や田んぼがあって、溜め池があったりし、人里があったりします。この人里の人は、昔はこの田んぼに肥料を入れるために、下草刈り後に肥料を入れたり、もしくは、この樹木を切ったりして焚き付けを使ってお風呂を沸かしたりしていたわけです。こういうような人里に近い低山を里山と呼んでいます。

たとえば、いまは、私たちはお風呂を沸かすときに何を使っているかという、ガスを使っているわけです。それから電気を使っていたりします。今は簡単になりましたけども、昔はお風呂入るには、薪を釜にくべて沸かすという、すごく大変で、その燃料はすべて里山から採ってきた、というのが昔の状況です。

里山ってどんなところって言う話をしましたけれども、まず、谷地を利用した水田があって、後ろにひかえる山があって、田んぼの肥料は後ろの山から採ってきて、生活に必要なエネルギーは山からとってきていた。重要なタンパク質も山から採っていた、というような状態だったわけです。さらに適度に利用され資源を獲得する場所だった。

ところが昔、薪をとろうと思い、取り過ぎたら何が起こってしまうかという、樹木が減ってしまいます。昔は、管理されていたのですが、だれかという、村の人が管理していたのです。古くは江戸時代では庄屋さん、今年はこの家の人はここに入ってもいいですよ。来年はこの人が入りましょと、順番に管理していたのですね。

日本の場合は適切に利用されていた。庄屋さんも、あまり切り過ぎてしまうと土砂崩れが起きてしまうから、これは採るのは来年にしましょ、ということをマネージメントしていました。それが里山なんです。適宜管理されていたわけなんです。常に人に利用されて、整備されてきた場所です。これが里山ということなんです。

ところが先ほど言ったように、今はガスで簡単にお風呂が沸かせるわけです。それから、ガスでご飯を作れるようになりました。よって、誰も山に入らなくなりました。

愛知県は、多くの森林を持っています。森林は、いまは、人が入らなすぎて荒れてき

ちゃったんで、伐採しています。

なんで木を切っているかという、日本の里山は全然使われなくなり、なんと日本の生物多様性が減っていつてしまっているという状況になってしまっています。

これはちょっとびっくりする話なんですけれども、日本の絶滅危惧生物は、環境省にレッドデータリストというものがあります。この中でどれくらいの割合で里山の生物がレッドリストに含まれていると思われるでしょうか。

ちょっとびっくりじゃないですか。50%ですよ。ちょっとすごい量の生き物が里山にいたわけです。というわけで50%は里山にいたわけです。陸の生態系の多様性を復元しようと思ったら、いま里山の環境を復元しないと生き物がいなくなってしまうということになっています。

じゃあどうしようってことですよ。なかなか難しいところですけども、実はたくさんの種類が生育できるって配布資料に記載してあります。

生態系としては、昔はすごく安定していろいろな生き物を育てていったということが考えられるわけです。

生物多様性が高い里山をなんとか維持していきたいというのが、私のいま取り組んでいることです。

なぜ生物多様性が大事か、どういうことか、いろんな生き物がいるということです。いろんな生き物がいるということは生物の相互関係がたくさんあるということです。

生物の相互関係がたくさんあるということは、例えば、ある生き物がちょっと今年調子悪いな、数減らしちゃう、というときに、誰かが補っていくのか。生物多様性のメリットは何かと言うと、あるとき、何か足りなくなってしまうときに別の人が補っている。これが生物多様性のメリットなのです。配布資料に記載していますが、物理環境が変動したときにも生態系が壊れにくい。

生物多様性があれば他の人がフィードバックしてくれるという機能があります。

実はテントウムシとナミテントウとクサカゲロウという生き物がありますが、ナミテントウムシは、アブラムシを食べています。じゃあ、クサカゲロウの幼虫は何を食べていると思いますか。アブラムシです。じゃあ、ヒラタアブの幼虫は何を食べていると思いますか。アブラムシ。そうです。アブラムシは世の中にすごくいっぱいいますよね。ヒラタアブもクサカゲロウもナミテントウもみんなアブラムシを食べている。じゃあ、アブラムシを食べ尽くしていなくなってしまうたら、ナミテントウとクサカゲロウとヒラタアブは何を食べていると思いますか。実はアブラムシがいなくなるとお互い食べられます。ナミテントウはクサカゲロウの幼虫を食べます。クサカゲロウはナミテントウの幼虫を食べます。例えばアブラムシがいなくなったときに何が起るかということ、

フィードバックするわけですね。でもその世の中にクサカゲロウとヒラタアブがいなかったらナミテントウムシはアブラムシを食べ尽くしてしまったら何を食えばいいのということです。

生態系の複雑さはあればあるほどうまく調節機能が働くということ覚えてもらえるとありがたいと思います。生物多様性が高くなると生態系が安定すると、エネルギー循環がフィードバックできるということです。

では、私が今取り組んでいる里山の一例を見てもらいたいと思います。海上の森。海上の森といえば、万博です。万博のときに何が起きたかという、オオタカがいたんです。オオタカがいたので海上の森に万博会場を作るのをやめて、違うところに万博会場を作った。これはすごい。ちゃんと移動して生物を守ったわけです。

万博会場の候補地になったので貴重だから守ろうということで海上の森が保全地区になりました。愛知県が買い上げて人が入れないようにし、開発できないようにするというにしました。

1997年に万博会場の候補地になりました。1999年にオオタカの営巣地が確認されました。2000年にメイン会場が変更しました。2005年に愛知万博が開催されて海上の森センターが開かれました。

市民活動が開発を止めたはじめての例です。お役所が決めたらだいたいそれはもうずっと突っ走るわけです。今回リニア新幹線はやるって決めたからたぶんやられるでしょう。市民活動で止めることはできないですね。

この場所が昔どんなところだったかと言うと、江戸後期の海上の森ですが、禿山みたいな感じです。土砂崩れがあった土地とか書かれていて、昔は荒れ果てた土地であった。面積は530ヘクタールで田んぼとか畑があって、2つの大きな砂防池や物見山があり、小規模な湧水湿地がいっぱいあったところです。

配布資料の植生図と地質図を比較すると、砂礫層の上にスギとかアカマツとか、花崗岩の上に広葉樹林がちょっとあったというような形の地図で、

ここは里山として非常に有名であった、他にも尾張名所図解っていうのがあって、これを見てもらうと、松しか生えていないです。非常に痩せた土地であったということがこの図からわかります。

愛知県にはすごい記録が残っていて、これが瀬戸市街から見た海上の森です。ちょっとひどくないですか。これ見てどうですか？どんな感じを受けます？そうで、禿山ですよ。なぜ禿山だと思いますか？

海上の森は瀬戸市にあります。よって、陶器の釜の燃料としてここにある木を全部切

っちゃったわけです。それが江戸時代～明治なので、明治時代の庄屋さんが権力を持たなくなったあと、刈り取りし尽くされて草木一本残らない状態で刈り取りされてしまった。したがって、すごい土砂崩れが起きて大変なことになったので、禿山の治山工事をしましたという写真が残っています。

他にも写真があります。木なんか一本も生えていないです。どれだけ酷使したという感じですね。これが海上の森だったわけです。これ、どういう地層になっているかというと、これが地形図でよく出てきますけれども、層上に粘土がたくさん走っています。この中に砂利層があることで何が起きているかというと、粘土のところに水が溜まるので木は根っこを生やすことができません。なので、なかなか木も大きくなって痩せた土地だったというのが現状になっています。

他にもこういう花崗岩、配布資料ありますけれども、この斜線のもの、これが土岐砂礫層と呼ばれる部分で、これが土岐面ってところです。要するに粘土がたくさんあって砂礫層がボロボロだと。土壌があまりないというのが海上の森の場所だったと。これが生物層豊かだったと言われるとちょっと納得できませんよね。生物層はあまり豊かじゃないというところ、これが海上の森です。

他にもこういう図がありますけれども、ほとんどがチャートの風化した礫が花崗岩、透水性が高く乾燥しやすいというふうにかかれています。

現在の海上の森は今はこんな形になっています。海上の森マップがここにかかれていますけれども、ここに農家があって、谷地があって、森があって、というふうにかかっています。今度、ぜひ行ってみてください、森です。

そんなさっきみたいに痩せた土地がどこにも見当たりません。すごくきれいな森になっています。

海上の森のすごいところは何かって言うと、オオタカが営巣しているところです。オオタカ、カッコイイです。なんでオオタカのことをみんな好きかって言うと、カッコイイからです。

それからムササビがいます。ムササビ見たことある人、いますね。ムササビは、かわいいですよ。私、むかし日光に住んでいたんで、日光街道を走っていくとムササビがスギの間をビュンビュン飛んでいます。すごくかわいいです。

それから海上の森の何がすごいかって言うと、絶滅危惧植物がすごくたくさん生えているところです。それから最近、名古屋市ではギフチョウが絶滅宣言されましたけど、ギフチョウがいるところです。ギフチョウいまは、いないけど結構いっぱいいるんです。

これね（配布資料）、オオタカですよ。ちょっとカッコいいですよ。はい、ムササビ、これもいいですよ。ちょっと見たくないですか？ これうまくすれば時々見られます。

それから絶滅危惧植物何があるかというシデコブシがいたりとか、トウカイコモウセンゴケっていう食虫植物がいたりします。サギソウもたくさん咲いています。シラタマホシクサもかわいいです。ちょっと行きたくありませんか？ 今度はこの中でやるのではなくてツアーを組んでもらいたいですね。ツアー1時間で、しゃべるのは30分くらいでという感じでやった方が楽しいかなと思いますけども、こうした生き物がいっぱいいます。

これもかわいいです（配布資料）。これは3月下旬～4月にかけて咲く花の咲く時期のギフチョウです。ギフチョウの何がこんなに人を喜ばせるのかということ、やっぱりモコモコしてかわいいところですよ。トラみみたいなスジがあって色がきれい。ギフチョウは、ほぼほぼ、愛知県の中では見られなくなりました。モリコロパークに行くとけっこう見られます。

ギフチョウは、飛ぶのが下手なんですよ。みなさんあんまりチョウチョの飛び方とか見られたことないかもしれないですけど、最近名古屋市内でたくさん見られるスマグロヒョウモンっていうヒョウモンチョウ、ガシガシとびます。どこでも飛んでいける感じですね。それからよく飛んでいるアサギマダラですけども、アサギマダラは300キロとか400キロは普通に飛びます。すごく、がんばって飛んでいます。しかしギフチョウはめっちゃ下手くそです。いつもへろへろ飛んでいます。なかなか開けた場所でないと木にぶつかっちゃって、当たったりして、すごくアホなチョウチョです。でもちょっとかわいいです。アホな子ほどかわいいですもんね。これがちょっと前まではたくさんいました。

こんなにすごいところなのに現在は、ギフチョウはほとんど見られなくなっちゃいました。それから先ほど見せた植物もほぼほぼ数が減少しちゃっています。

せっかく愛知万博を阻止して保全したのに、なんでいなくなっちゃったと思いますか？

土地の使い方の考え方です。私が、この仕事を引き受けたかということ、まず愛知万博のときはすごくお金がたくさんついたわけです。いろんな大学は研修者がこぞってそのお金が欲しくていろんな人が研究をやったわけです。いまは、お金は付いていないです。お金が付いてなくてその当時研究していた人たちが、みんな終わりーっていなくなっちゃったわけです。どうしようって私のところにきました。私は海上の森へ行ったことがないので、行ってみたいわということで引き受けたわけです。

ギフチョウが減る原因というのは、まず直接的な原因って何があると思いますか？

何がなくなると生き物ってなくなると思いますか？

エサがいなくなったから、じゃないかと思うわけです。チョウチョって大人のと子どもとで食べているもの違いますか？ 違いますよね。子どものときは何食べます？ そう、葉っぱを食べていますね。大人になったら何を食べますか？

残念ながらチョウチョは、虫は食べないです。糞とかおしっこ食べるものいますし、蜜を飲んだりしているのもいます。基本は液体です。ギフチョウがいなくなったのはなんでと、聞かれたらやっぱり食べ物ですよ。じゃあ食べ物の調査をしようと思って、私は調査をし始めたわけです。

かつて海上の森は禿山だったわけですよ。いま、行ってみたら利用されない植物がどんどん大きくなってしまっていた。これは生態系の変化ですね。食べ物がいなくなったんだと。というのを私は調査したわけです。海上の森は里山だったと、里山環境は生物多様性に富んでいると。

里山は古くから人に維持され管理されてきたと。エネルギーなどの資源、薪とか焚き付けなどのように、火をもって出ると。それから食料。山菜も食べますよね。

海上の森では何が採れるかということ、おいしい山菜は？ あんまりないです。コシアブラかな。コシアブラとタカノツメっていうコシアブラの近縁のもですけどね。タカノツメっていうのはちょっとおいしいです。タラの木はほとんどありません。全然タラの木ないです。

あと動物、イノシシはたくさんいます。私イノシシ、海上の森で何回も遭っています。ちょっと怖いです。あとイノシシがいる証拠にうちの研修室は山奥にあるけど、入っていくと必ずダニにやられます。誰かがダニに噛まれています。ダニがいるということはタンパク質がたくさんあるとうことです。

肥料、こういったものを利用されなくなったらどうなるのか、という話ですね。利用されなくなったら植生は自然植生に戻っていくというわけです。自然植生に戻っていくというのは何かというと、中学校のときやりましたね。みなさん覚えておられると思いますが。(配布飼料) この紫色のところ、ここは何の気候でしょうか？ 熱帯雨林です。では黄色のところはなんだと思いますか。砂漠です。この熱帯雨林か砂漠か、ツンドラか温帯広葉樹林、そういうのはなんで決まっていると授業のとき習いましたか。

気温と降水量で決まっています。例えば日本だったら気温と降水量は、日本の平均気温は 15 度くらいですかね。降水量は 1500 ミリくらいだと、何になるかというと、照葉樹林になります。

つまり私たちの住んでいる地球は何もしなかったら植生は決まっているわけです。こ

れが横軸に降水量と年平均気温による増産量と捉えていて、降水量と平均気温で決まりますけども、降水量と平均気温が例えば 1000 ミリを超えたら、そして蒸散量が高くなれば熱帯雨林になるというのが決まっています。

日本は基本的にはどうなるかっていうと、こういう教科書にかかれていたような図があります。これ、みなさんおすすめですよ。私が話しているのはたいてい教科書にかいてあるので、こういう教科書を読んでもらえばいいですけど、生態学入門っていう本があります。それはこういう図（配布資料）が出ていますけれども、この濃い緑色のところ全部照葉針葉樹林です。

（配布資料）より。

愛知県は照葉樹林しかないということになります。これは、標高が高いところは高山植物が生えている。ちょっと寒い気候。横軸に北緯、縦軸に標高がとってあります。だいたい愛知県はどのへんかなっていうと、ほぼ平地のところ、300メートル以下、1000メートルいかなところは全部照葉樹林であるというのが現状です。

なので、照葉樹林、上から見るとこんなですね。照葉樹林きれいですよね。九州に5月頃に行くとテラテラの葉っぱがものすごくきれいです。

これが落葉樹林です。落葉樹林の色の方がちょっと薄いですね。これは冬になると葉っぱが落ちて軽くなる林です。

なので、瀬戸の禿山はどうなっていたかという、みんなが植物を刈り取りすぎて、全部薪に使っちゃったから、こういう状態だったわけです。ほぼほぼ草原。何も木が生えていない。だけど、基本的には降水量と年平均気温で照葉樹林になるというのは決まっているので、草原はだんだん低木が入ってきて、明るい所が好きな木が入ってきて、最終的にはテラテラの照葉樹林。これが順番に進んできたというわけです。

里山はどういう状況かという、里山はこの木を切って使っていたから常に内側の力が働いていたわけです。なので、この辺りで止まっていたわけです。

こういう植物の種類が変わっていくことを遷移と呼んでいます。

時間がたつと、例えば火山が爆発すると、この前も御岳山が噴火しましたが、御岳山が噴火したら何も生えてない状況になります。けどしばらくすると、地衣とかコケ類が生えてきて、コケ類が生えてくればここに栄養源がたまって栄養ができてくるので、草が生えるようになります。草が生えてきたらここにもっと栄養がたまって、低木が生えてくるようになります。低木が生えてくるようになればここに落ち葉がたまるから栄養がたまってきて、陽性の高木が生えるようになります。高木が生えてきたあとに暗くなったら、暗いところが好きな木が生えてきます。というふうに変ってきます。このような遷移が進んでいくのが日本の現状です。

たとえば名古屋港の開発をします、名古屋港を、港を新しく作りますといったときに、緑地化するとか緑色にするとか考えなくても、何もしなくても生えてきます。何かが生えてくるのは問題だけど。いろいろ生えてくるから緑地を緑化しなくても全然問題がないのが日本という国です。 高速道路を通したときに何もしなくてもそのうちなんか生えてきます。だけど緑色にどうしてもしたいと思って、緑色にがんばってしてしまっているというのが日本の状況です。

最終的にはこの陰性高木林になったときには、林の中はどうなるかということ、こんなです（配布資料）。すごいですね。ちょっと行ってみたいですね。これ屋久島です。

屋久島といえばもののけ姫ですけど、みなさん大人なのでアニメーションなんか見ないと思いますけど、屋久島はこのように鬱蒼とした非常に暗い森になって、下に生えているのがコケだけという状況になったりします。

遷移が進んで極相になると何が起こるかっていうと、乾いた状態になります。深い森になります。暗い森になると何が起こるかっていうと、明るいところが好きな動物がいなくなります。生物もいなくなります。結局は、生物の種類が減っちゃいます。

生物の種類が減ると安定性がなくなっちゃうんです。生物多様性を維持するためには、明るい森をずっと作り続けていかないと、生物の種類が減っちゃうという問題が出てきているわけです。だから生物多様性を維持することはかなり難しいということです。

私、今回調査を依頼されて、ちょっと調べてみました。（配布資料）

ギフチョウがいなくなったことを調べてくださいと依頼があり、ギフチョウが食べている植物、カンアオイと言います。カンアオイの裏にピカピカの卵があります。ギフチョウが、このピカピカの卵を産むための葉っぱがなくなっているじゃないかということで、海上の森を全部歩いて、この植物があるところを全部プロットしました。この黒いところにカンアオイがたくさんあったのです。

最初に海上の森の「カンアオイがなくなったから卵が産めなくなった」ということを愁訴されたわけです。本当になくなったのか知りたいです。

したがって、学生と私もめっちゃ歩きました。

全部歩いて、全部写真を撮ってプロットして、写真を撮っているので枚数がわかるわけです。葉っぱの枚数が。単位面積あたりに葉っぱが何枚あるかっていうのを撮りました。

そうすると見てもらうとわかると思いますけど、すごくたくさんあるところは、ここと、ここと、ここにしかなかった。でも海上の森のカンアオイは、もうなくなっちゃったって言っているわけです。だが、なくなっているわけではないということがわかりま

した。どうも、分布が偏っているじゃないかということがわかってきました。

ちょっと写真を撮ったものを見てみると、食べられた痕があるので、幼虫がいると思いますが、チョウチョの気分になってもらってこれおいしそうだと思いますか？ それで十分大きくなれるくらいあると思います？

カンアオイっていう植物は毒があり、この毒を食べて大きくなっているんです。なので、葉っぱは実は1枚や2枚じゃダメで、普通のところのギフチョウの幼虫は8枚食べるって言われます。この前、三重県の人にあの葉っぱの裏に卵何個ありました聞いたら、あったと。

10個くらい産むということは、何枚必要だと思います？ 80枚ありますか？ ないですよ？ つまり80枚ないっていうか、これは全然おいしそうじゃないってことです。これは全然枚数が足りないというのが現状かなと、私は思ったわけです。

ところがこのカンアオイの論文をいろいろ調べてみると、カンアオイは暗くて湿ったところが好きだと書いてある。安定したところじゃないと育たないと書いてある。

いろんな分類学者が暗い森が大好き、安定したところが大好きって書いてあるんですけど、私はいろんなところを歩いてみたら、どうも安定したところは好きじゃないんです。

愛知県立芸術大学の森に行くと、昭和62年に堰堤を作った人がいて、その堰堤の上に行くとカンアオイがいっぱい生えているわけです。昭和62年です。30年前に開削したところが安定しているかっていうと、全然そんなことないですよ。たぶんそのときは環境配慮なんか全然していないので、重機入れてガンガン作ったところが好きなわけです。海上の森を歩いてみると看板立てた下に必ず生えている。ということは、誰かが掘ったところが大好き。だからどうも違うじゃないかと考えたわけです。

昔どこに生えていたかって聞いたら、そんなデータはないって言われたが、掘り起こすとこれが、万博をやる前にコンサルが入って調べたのですが、これが黒いところが、カンアオイがあったところなんです。見てみると私たちが調べたところと違いますか？ だからたぶん15年くらい前には、ここに生えていたんです。たぶん。

だけど私たちが調べたらいっぱいあるところは、ここだったはずなのに、こっち側に移動しているわけです。

どうも移動が好きらしい。安定したのは好きじゃなさそうだということがわかってきました。

じゃあどうするかってことですが、やっぱりちょっと実験してみたわけです。本当は森の木を切ろうとすると、自然保護団体が反対して大変なことになるわけで、先日も海上の森の湿地の木を切ったんです。湿地がどんどん狭くなってきちゃったので、木を切ったらいいじゃないですかって言ったので、県の人がじゃあ、木を切りましょうということで木を切ったわけです。

そしたらいきなり後ろの方から「何で木を切ってるんだ」と怒鳴られて大変でしたけど、・・・やっぱりこれも何か起きているだろうと。ここにあったのに、ここはもう鬱蒼とした森なわけです。なくなってるっていうことは木を切ればいいんじゃないかということで、木を全部切っちゃいました。もう丸裸。10メートル×10メートルの木を切って、うちの研究室もちろんチェーンソーないので、手鋸で切ったわけです、みんなで。そのあとカンアオイが大きくなるかを実験したわけです。

(配布資料)

横軸に開空度っていうのをとりました。今はいろいろ便利なツールがたくさんあって、リコーから360度カメラっていうのが出ています。写真を撮ると360度全部、撮れて、天井がどれくらい空いてるかっていうのを簡単に計算できるソフトがあります。

全部、色々な木を切って、もちろん横から日が入ってくるので、完全にみんな同じ状況ではないですが。

カンアオイの上で1個ずつどれくらい上が空いているかデータをとって、そのデータをとったあとに3年間、毎年葉っぱの大きさと枚数を数えて、葉っぱの大きさの縦横を測って、枚数を数えて、どれくらい大きくなったかをとったものです。これを横軸に天空が何パーセント空いているか、縦軸に生長率をとったものです。

このデータを見たときに私は震えがきまして、とりあえず40%から50%の間がでかくなっている。木を切る前はどの程度だったかということ、10%も空いていない状態。

だから森は切らないと生き物がいなくなっちゃうわけですよ。だから、木は切ってください。木を切ることによって維持されるのが里山という生態系というわけです。

木を切ったらもっといいこともあったのです。何がいいことがあったかというと、この大人の食べ物の花がいきなりたくさん咲くようになりました。この大人の食べ物は100%切ったところではなくて、県が予算をつけてくれて半分くらい間伐してくれたものです。半分くらい間伐したら毎年少ししか咲かなかったツツジがたくさん咲きました。大人の食べ物もバッチリ。子どもの食べ物もバッチリ。

つまり木を切らないと里山は維持できないということです。